

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2023年8月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2023年8月10日～8月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 137社
- 回収率 68.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の8月の状況を見ると業況DIは、前月より1.4ポイント改善の▲14.6となった。

2017年9月以来72ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲12.4、当月と比べ2.2ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2023年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 2023年9月～ 2023年11月
業況	▲24.5	▲18.8	▲20.2	▲19.4	▲16.0	▲14.6	▲12.4
売上	▲4.9	5.3	8.5	2.2	4.6	5.1	3.6
採算	▲23.7	▲21.0	▲20.9	▲17.9	▲17.6	▲18.2	▲13.8
仕入単価	▲67.2	▲68.4	▲67.4	▲67.1	▲65.6	▲69.3	▲59.9
販売単価	29.5	28.6	31.8	32.8	30.5	33.6	24.8
従業員	31.1	33.1	29.4	32.8	34.3	35.0	35.7
資金繰り	▲17.2	▲7.5	▲10.1	▲11.9	▲6.9	▲9.5	▲8.1

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2023年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 2023年9月～ 2023年11月
建設	▲53.6	▲20.7	▲39.3	▲35.7	▲26.7	▲21.8	▲21.9
製造	▲32.1	▲20.0	▲23.4	▲25.8	▲13.8	▲15.7	▲12.5
卸売	▲10.3	▲9.4	▲10.0	▲9.7	▲3.1	▲10.8	▲3.6
小売	▲11.1	▲4.4	▲14.3	▲22.7	▲33.3	▲18.2	▲18.2
サービス	▲5.3	▲47.3	▲10.0	0.0	▲5.3	▲4.3	▲4.3

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

<p>建設業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の技術者不足と、将来の技能者不足に有効な手立てが見いだせず、縮小均衡を目指さざるを得ないと考えている。（総合工事） ・実質 GDP の速報値は年率換算で 6.0%増(4~6 月)であるが、中身は内需不足で消費減である。また、民間住宅(住宅投資)は高いプラスを示しているもののこの地域では実感が無い。名目 GDP は 12%増で税収は上振れが予想されるので内需不足を補う政策を国に望みたい。（設備・その他） ・新築住宅の需要の低迷により受注の確保が喫緊の課題である。OB 客からの紹介に偏重した営業活動の限界が垣間見えてきており、弊社の施工物件の魅力を SNS で最大限発信し新規ユーザーの獲得を図っていく方針である。建設業界は、建築単価の上昇による新築マインドの低下で逆風にさらされている。少ないパイの奪い合いは必至であり消耗戦は長く続くと思われるが、採算性を度外視した受注は企業体力を低下させるだけであるため、親切・丁寧な説明により、お客様が納得できる適正価格で勝負していくことが重要であると認識している。（建築業）
<p>製造業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農繁期を迎え、人員募集で当面の確保ができた。今後の天候次第で収穫量が大きく変化するので、収穫終了までは不安な面である。（食料品） ・電気料金・灯油などエネルギー関連のコスト上昇、最低賃金の底上げによる人件費の上昇、仕入れ価格の上昇など、経費が軒並み上昇している。価格に転嫁しているが、販売数が伸び悩み。ただ年末に向けて明るい兆しも見えているため、この先 3 ヶ月は少し期待している。（家具・木材） ・工場によって原材料の集まりにバラツキが多い。従業員の応募が無い。（家具・木材） ・価格転嫁は理解していただいているが、仕入の入荷難。（金属窯業他）
<p>卸売業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・猛暑で消費が少々下落した影響で当社売上も若干ながら減少したが、向こう 3 ヶ月は比較的例年並みと予想する。（繊維・衣服等） ・物価高騰による買い控えも感じられるが、季節感を取り入れ購買意欲を押し上げる商品開発に専心している。（飲食料品） ・軽油の高騰により、重機(林業用機械)の燃料費の負担が大きくなってきている。（機械鋼材） ・当月の業況については、昨年同期と比べ微減に推移。今後の見通しについては予約販売が徐々に増加しており、さらに公共団体向けの契約を獲得したことから下期の業況は上向くものと思われる。（その他）
<p>小売業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ 5 類移行後の 8 月お盆時期になったが、帰省客の来店が少なく売上が全く上がらなかった。7 月同様ネットでのオフ率が 8 月に入り上がっており、店舗にて 50%OFF 以上で対抗するのは難しい状況。売上が厳しい。（衣服身回品） ・原材料等値上げが落ち着きつつあり、弊社商品値上げの効果が少しみられ利益確保が出来ている。しかし、光熱費・最賃大幅上昇で今後も注視していかなければならない。観光関係需要は昨年より良く、全体の売上を引っ張っている。当面の課題は人材不足と人件費高騰。賃金面の待遇を良くしなければ人が来ない(採用にならない)。大手中心とした大幅賃上げが中小に影響をもたらしている。（食料品） ・予想がつかない程厳しい秋冬商戦になると見ている。特に灯油については過去に無いぐらい高騰価格となり、買い控えによる配送不効率や収益悪化もあるだろう。（その他） ・大手中古車販売店の進出により、新規顧客への販売が減少している。（自動車）
<p>サービス業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドも動き出し稼働率も上がる。札幌のホテル単価の上昇に引きずられ旭川も宿泊単価上昇。稼働は上がるが、従業員の不足が顕著。（ホテル・旅館） ・仕事量はあるが技術者不足により、外注に頼らざるを得ない状況が続いている。（その他） ・仕入れ価格の上昇が止まらず値上げをせざるにはいけない状況。（飲食） ・夏期のイベント等活況が戻っており、足元の業績は回復に向いているものの、今後人員不足に対応するためには、事業系統・稼働数を減じていかねばならず、収入の萎縮が生じてしまう。燃料の高止まりのなかで最賃改定や物価上昇に伴う賃金見直しも必要であるが資金繰りは苦しい状況が続く。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI2.1 ポイント悪化、採算 DI4.2 ポイント悪化、仕入単価 DI5.0 ポイント悪化、販売単価 DI1.9 ポイント改善、資金 DI0.6 ポイント改善、従業員 DI6.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 4.9 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、建築業 29 ポイント悪化、総合工事 15 ポイント、設備・その他 12 ポイント改善となった。人手不足により工事受注の機会損失。従業員の高齢化に伴う生産性の低減。地場旭川地域の工事量が少なく、出張地方工事に頼る事が増加し、諸経費上昇も有り採算が上がらないとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI9.1 ポイント改善、採算 DI5.3 ポイント改善、仕入単価 DI6.5 ポイント改善、販売単価 DI12.6 ポイント改善、資金 DI7.3 ポイント改善、従業員 DI8.1 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 1.9 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 25 ポイント、家具・木材 20 ポイント改善、印刷・出版 40 ポイント、金属窯業他 21 ポイント悪化となった。観光地(ホテル・道の駅)向けの出荷が好調。販管費(人件費・光熱費)の増加があるものの、売上増で吸収しているとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI10.7 ポイント悪化、採算 DI7.6 ポイント悪化、仕入単価 DI7.6 ポイント悪化、販売単価 DI4.9 ポイント改善、資金 DI10.2 ポイント悪化、従業員 DI6.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 7.7 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 7 ポイント改善、その他横ばい、繊維・衣服等 23 ポイント、機械鋼材 29 ポイント悪化となった。原油価格の上昇に加え、補助金の縮小もあり、仕入値が上昇しており、販売価格の値上げを実施したものの、先行きは不透明のままであるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI22.7 ポイント改善、採算 DI10.4 ポイント改善、仕入単価 DI10.6 ポイント悪化、販売単価 DI12.3 ポイント改善、資金 DI3.9 ポイント悪化、従業員 DI1.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 15.1 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品、その他横ばい、食料品 30 ポイント、自動車 17 ポイント改善となった。仕入価格が週単位で値上がりしているが、販売価格に転嫁しきれない。さらに、最低賃金上昇による人件費の増加が予想されるため早期に採算性の改善が必要になっているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI22.2 ポイント悪化、採算 DI5.2 ポイント悪化、仕入単価 DI0.2 ポイント悪化、販売単価 DI20.4 ポイント悪化、資金 DI7.9 ポイント悪化、従業員 DI11.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 1.0 ポイント改善となった。業種別では、その他 17 ポイント、整備業 75 ポイント、運送 25 ポイント悪化、ホテル・旅館横ばい、理美容・クリーニング 100 ポイント、飲食 70 ポイント改善となった。コロナ 5 類への移行で、観光客が戻ってきた。販売単価も例年の 2 倍近く上昇しているため売上も増加している。だが、スタッフ不足は続いており求人募集しても応募がなく困っているとの声も寄せられている。</p>